

ドイツ語技能検定試験 2 級筆記試験で 求められているドイツ語運用能力について

人 見 明 宏

0. はじめに

2012年に採択された本学の「平成24年度グローバル人材育成推進事業構想調書（特色型）」では、本学外国語学部ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻のドイツ語について、以下の目標レベルを学生の70%が達成することを目指している。

専攻言語としてのドイツ語	2年修了時にドイツ語技能検定試験3級またはCEFR A2 卒業時にドイツ語技能検定試験2級～準1級またはCEFR B2
--------------	--

また、実践的ドイツ語能力を習得し、ドイツ語技能検定試験（以下、独検）の2級合格も目指して、2016年度後期から、本学ドイツ語圏専攻の専攻言語科目として「ドイツ語実践B」（半期、1単位、主に3年次対象）が新規開講される。

本論文では、過去に実施された独検2級の筆記試験問題を分析し、そこで求められている具体的なドイツ語運用能力について考察する。また、この考察結果を「ドイツ語実践B」の授業目的の達成に役立てると共に、外国語の自律学習能力養成のための取組についても提案する。

1. 独検2級の検定基準と試験構成

独検は、1・2・3・4級の4つの受験級で構成されていたが、2008年秋期の試験から1・準1・2・3・4・5級の6つの受験級に変更された。2級に関しては、難度が少し下がったこともあり、本論文では、基本的に2008年秋期からの独検の試験問題を対象とする。

まず、独検のHPにある2級の検定基準は、以下のとおりである。

- ドイツ語の文法や語彙についての十分な知識を前提に、日常生活に必要な会話や社会生活で出会う文章が理解できる。
- やや長めの文章の主旨を理解し、内容についての質問に答えることができる。
- 具体的・抽象的なテーマについてのインタビューや短い記事の内容を聞き取ることができる。
- 短いドイツ語の文を正しく書くことができる。
- 対象は、ドイツ語の授業を約180時間（90分授業で120回）以上受講しているか、これと同じ程度の学習経験のある人。
- 語彙3000語

(<http://www.dokken.or.jp/about/level.html>)

次に、独検2級の試験構成であるが、これは筆記試験と聞き取り試験の2部構成となっている。筆記試験は、問1から問4における文法、語彙・熟語を中心とした問題、問5から問7におけるやや長めの文章や会話文の内容把握などの問題から構成されている。聞き取り問題は、2部構成となっており、短い会話文の内容理解と長い文章における重要な情報の聞き取り問題が出題されている。実施年により、構成、設問数、また出題形式が異なることもあるため、具体的な試験構成については、2015年秋期試験の例を2.1で挙げることにする。

2. 独検2級筆記試験の分析

以下では、まず2015年秋期試験の概要を挙げ、次に筆記試験問題を分析し、独検2級筆記試験で求められているドイツ語運用能力について考察する。

2.1. 2015年秋期試験概要

独検2級2015年秋期試験の試験時間、試験構成・内容、配点などは、以下のとおりである。

筆記試験（試験時間：80分）：問 1～問 7、計 108 点

聞き取り試験（試験時間：約 30 分）：第 1・2 部、計 36 点

	試 験 内 容	配 点
問 1	派生語、分離前綴りと副詞、間接語法、語順の問題	3 点 × 4
問 2	前置詞に関する問題	3 点 × 4
問 3	同じ意味の文に書き換える問題（1 語を書き入れる）	4 点 × 5
問 4	前置詞、語法の助動詞、不定代名詞、機能动詞に関する問題	3 点 × 4
問 5	やや長い文章の内容と一致する文を選択する問題	4 点 × 2
問 6	長い文章を読んで、空欄に適切な表現を補う、同じ内容を表す文を選択する、本文の内容と一致する文を選択する問題	3 点 × 4 + 4 点 × 3
問 7	空欄に入れるのに適切な表現を選択し、会話を完成させる問題	4 点 × 5
第 1 部	放送された会話の内容と一致する文を選択する問題	4 点 × 4
第 2 部	放送された長い文章の内容に関する質問に対して、適切な答えを選択する問題	4 点 × 5

なお、筆記試験と聞き取り試験の合計点 144 点を 100 点満点に換算した全体の平均点は 53.05 点、合格最低点は 52.21 点である（公益財団法人ドイツ語学文学振興会（2016）S.183）。

2.2. 筆記試験問題の分析

以下では、独検 2 級筆記試験の問 1 から問 7 について、問題群ごとにその試験問題を分析する。その際、まず 2015 年秋期試験に関しては、実施された問題を挙げ、個々の設問について分析し、そこで求められているドイツ語運用能力を考察する。次に、2008 年秋期から 2015 年春期に実施された試験問題については、実施された問題は挙げず、2015 年秋期試験も含めた分析結果から、独検 2 級筆記試験で求められているドイツ語運用能力について考察する。なお、分析・考察の対象は、文法と熟語の問題を中

心に行う。

2.2.1. 筆記試験

2.2.1.1. 問1

問1は、語形、派生、分離前綴り、語順などに関する問題であり、2015年秋期試験は以下のとおりである。

1 次の(1)~(4)の問いに対する正しい答えを下の**1~4**のうちから一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

(1) Sommer – sommerlich のように、名詞を形容詞にするときにつく語尾が異なるものを選びなさい。

1 Fleiß **2** Furcht **3** Schmutz **4** Sonne

(2) 次の文(A)~(D)の()に入る語が正しい順序で並んでいるものを選びなさい。

(A) Ein Bekannter, der () wohnt, heißt Nachbar.

(B) Mit zwei Euro macht man diesen Brief ().

(C) Er ist Universitätsprofessor und () auch als Schriftsteller tätig.

(D) Die Mutter macht das Essen der Geburtstagsparty für die Tochter ().

(A)	(B)	(C)	(D)
1 nebeneinander	– fertig	– nebenbei	– frei
2 nebenbei	– frei	– nebenan	– fertig
3 nebenan	– frei	– nebenbei	– fertig
4 nebenbei	– fertig	– nebeneinander	– frei

(3) 次の文の()に入る最も適切なものを選びなさい。

A: Was steht in der Zeitung darüber?

B: (), heißt es.

1 Man würde Gespräche führen und sei gestern zu einer Übereinstimmung gekommen

2 Man führte Gespräche und käme gestern zu einer Übereinstimmung

<p>3 Man habe Gespräche geführt und sei gestern zu einer Übereinstimmung gekommen</p> <p>4 Man führe Gespräche und komme gestern zu einer Übereinstimmung</p> <p>(4) (A)～(E) を並べ替えて文を完成させるとき、正しい順序になっているものを選びなさい。</p> <p>Wenn der Mensch () (), () () (), würde er bald zugrunde gehen.</p> <p>(A) auf die Veränderung der Umwelt (B) schnell und gezielt (C) ist (D) nicht imstande (E) zu reagieren</p> <p>1 (D)→(A)→(B)→(E)→(C) 2 (D)→(C)→(A)→(B)→(E) 3 (B)→(D)→(C)→(A)→(E) 4 (C)→(A)→(E)→(D)→(B)</p>

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2016) S.38)

ここでは、以下の点が問われている。

- (1) 名詞から派生する形容詞の接尾辞に関して、Fleiß、Schmutz および Sonne は、-ig を付けて形容詞 (fleißig、schmutzig、sonnig) を作るのに対して、Furcht から派生した形容詞は furchtbar / fürchterlich であること。
- (2) 副詞 nebenan、nebenbei、nebeneinander および分離前綴り fertig (fertig|machen)、frei (frei|machen) の意味・用法がわかり、文意から適切な語を選択できること。
- (3) 空欄には間接引用文が入ること、選択肢にある gestern から接続法第 I 式過去 (habe ... geführt、sei ... gekommen) が用いられること。
- (4) まず、選択肢 D にある imstande が、imstande sein + zu 不定詞句で「... することができる」を、E にある reagieren が auf et^a と共に「～に反応する」を意味することがわかること。次に、問題文が従属接続詞 wenn で導かれた副文で始まっているため、定動詞後置となり、また zu 不定詞は、zu 不定詞句の最後に置かれること。

問 1 は 4 問からなり、2008 年から 2014 年春期までは、名詞の複数形や

動詞の三基本形、形容詞の比較変化などの語形に関する問題、および正しい語順の文を選択する問題、意味のまとまりから正しい文の区切りを判断する問題などが出題されている。一方2014年秋期以降は、派生接尾辞や分離前綴りに関する問題、語句を正しく並び替えて文を完成する問題などが出題されている。

語順に関する問題では、人称代名詞や再帰代名詞の位置、3格目的語と4格目的語の語順、並列接続詞・従属接続詞と定動詞の位置、前置詞格目的語や方向の副詞的規定語の位置、nichtの位置、副詞や心態詞の位置、文法的枠外配置(zu不定詞や比較の対象)、二重不定詞構文などの知識が問われている。

2.2.1.2. 問2

問2は、前置詞に関する問題であり、2015年秋期試験は以下のとおりである。

2 次の(1)~(4)の文で()の中に入れるのに最も適切なものを下の1~8のうちから選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- (1) Deutsche Banken leiden () der Wirtschaftskrise.
- (2) Vorwiegend bedeutet für alte Männer in dieser Region der Nichtraucherschutz ein Eingriff() die persönliche Freiheit.
- (3) Wo kann ich mich () hohe Telefonrechnungen beschweren?
- (4) Ab dem Sommersemester 2016 studiert er () zwei Jahre in Deutschland.

- | | | | |
|---------------|--------------|----------------|--------------|
| 1 an | 2 für | 3 gegen | 4 in |
| 5 über | 6 um | 7 unter | 8 vor |

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会(2016)S.39)

ここで問われているのは、以下の点である。

- (1) 動詞 *leiden* が、前置詞 *unter* と結びついて熟語をなすこと。
- (2) 動詞 *eingreifen* が、前置詞 *in* と結びついて熟語をなし、この動詞から派生した名詞 *Eingriff* も前置詞 *in* と結びつくこと。

ドイツ語技能検定試験 2 級筆記試験で求められているドイツ語運用能力について

- (3) 再帰動詞 *sich*⁴ *beschweren* が、前置詞 *über* と結びついて熟語をなすこと。
- (4) 前置詞 *für* が、期間を表す名詞と結びついて予定期間「～の予定で、～の間」を表すこと。

2008年から2015年の問2は、4問出題され、その多くは特定の前置詞と結びついて用いられる動詞や形容詞などの熟語が問われている。さらに、上記の(2)のように、特定の前置詞と共に用いられる動詞から派生した名詞も、同じ前置詞と共に用いられることも問われている。一部ではあるが、前置詞の用法に関する問題も出題されている。また、問4でも同種の問題が出題されている。問4の一部も含め、2級では、主に以下の前置詞の用法と熟語・成句などの知識が問われている。

・前置詞の用法など

認識・判断のてがかりの <i>an</i> + 3 格	予定期間の <i>für</i> + 4 格
最上級と共に用いられる <i>auf</i> + 4 格	代価・代償の <i>für</i> + 4 格
受動文での手段・原因の <i>durch</i> + 4 格	差異の <i>um</i> + 4 格

・熟語・成句など

<i>auf</i> <i>j</i> ⁴ / <i>et</i> ⁴ <i>achten</i>	<i>j</i> ⁴ <i>an seinem</i> Gang erkennen
eine Ahnung von <i>et</i> ³ haben (問4)	(認識・判断のてがかりの <i>an</i>)
unter vier Augen	
<i>sich</i> ⁴ mit <i>et</i> ³ auseinander setzen	<i>sich</i> ⁴ nach <i>et</i> ³ erkundigen (問4)
<i>sich</i> ⁴ bei <i>j</i> ³ für <i>et</i> ⁴ bedanken	auf jeden Fall
<i>j</i> ⁴ mit <i>et</i> ³ beschäftigen	aus <i>seinen</i> Fehlern lernen
<i>sich</i> ⁴ auf <i>et</i> ⁴ beschränken	<i>j</i> ⁴ nach <i>et</i> ³ fragen
<i>sich</i> ⁴ bei <i>j</i> ³ über <i>et</i> ⁴ beschweren	<i>j</i> ⁴ zu Gast haben
aus <i>et</i> ³ bestehen	bei ... Gelegenheit
bei <i>j</i> ³ zu Besuch sein	vor Gericht kommen
<i>et</i> ⁴ in Betrieb nehmen	<i>sich</i> ⁴ an <i>j</i> ⁴ / <i>et</i> ⁴ gewöhnen (問4)
<i>sich</i> ⁴ auf <i>j</i> ⁴ / <i>et</i> ⁴ beziehen	<i>sich</i> ⁴ auf <i>et</i> ⁴ gründen (問4)
<i>j</i> ⁴ um <i>et</i> ⁴ bitten	um ein Haar (差異の <i>um</i>)
der Eingriff in <i>et</i> ⁴	<i>j</i> ⁴ / <i>et</i> ⁴ für ... halten
(< in <i>et</i> ⁴ ein greifen)	es handelt sich um <i>j</i> ⁴ / <i>et</i> ⁴ (問4)
<i>j</i> ⁴ zu <i>et</i> ³ einladen	aufs Herzlichste (最上級と共に

用いられる auf ; 問 4)	nach j^3/et^3 suchen
von j^3 hören	von einem Tag zum anderen (Tag)
<i>sich</i> ⁴ über <i>et</i> ⁴ informieren	von <i>et</i> ³ überzeugt sein (問 4)
unter <i>et</i> ³ leiden	rund um die Uhr
<i>sich</i> ⁴ bei j^3 melden	für <i>et</i> ⁴ die Verantwortung tragen
nach Plan laufen	in j^4/et^4 verliebt sein
von <i>et</i> ³ profitieren	über <i>et</i> ⁴ verfügen
mit <i>et</i> ³ rechnen	unter <i>et</i> ³ <i>et</i> ⁴ verstehen
<i>et</i> ⁴ um <i>et</i> ⁴ reduzieren (差異の um)	gegen <i>et</i> ⁴ verstoßen
reich an <i>et</i> ³ sein	auf <i>et</i> ⁴ verzichten
j^3 wie aus dem Gesicht geschnitten	<i>sich</i> ³ unter <i>et</i> ³ <i>et</i> ⁴ vor stellen
sein	j^4 vor j^3/et^3 warnen
über Büchern sitzen	<i>sich</i> ⁴ auf den Weg machen
für <i>et</i> ⁴ sorgen	<i>et</i> ³ aus dem Weg gehen
<i>sich</i> ⁴ um j^4/et^4 sorgen	bei Weitem
über den Parteien stehen	<i>sich</i> ⁴ an j^4 wenden
an j^2 Stelle	gegen <i>et</i> ⁴ wirken

2.2.1.3. 問3

問3は、1語を書き入れて、同じ意味の文に書き換える問題であり、2015年秋期試験は以下のとおりである。

- 3** 次の(1)~(5)の**a**と**b**の文がほぼ同じ意味になるように()の中に最も適切な一語を入れて、**b**の文を完成させなさい。その一語を解答欄に記入しなさい。
- (1) **a** Der Ausflug wurde leider verschoben, weil es regnete.
b Der Ausflug wurde leider () des Regens verschoben.
- (2) **a** Max besucht oft seine Großmutter, damit er ihr bei der Gartenarbeit hilft.
b Max besucht oft seine Großmutter, () ihr bei der Gartenarbeit zu helfen.

- (3) a Das Problem lässt sich nicht einfach lösen.
b Das Problem () man nicht einfach lösen.
- (4) a Wenn man nicht schlafen kann, sollte man vielleicht noch einmal aufstehen.
b () nicht schlafen kann, sollte vielleicht noch einmal aufstehen.
- (5) a Daniel hat ein gutes japanisches Wörterbuch und kann damit japanische Texte lesen.
b Daniel hat ein gutes japanisches Wörterbuch, mit () Hilfe er japanische Texte lesen kann.

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2016) S.39)

ここでは、以下の点が問われている。

- (1) a で理由を表す従属接続詞 *weil* で導かれた副文が用いられており、その内容が、b では 2 格の名詞句で表されているため、空欄に補うのが、理由を表す 2 格支配の前置詞 *wegen* であること。
- (2) a で目的を表す従属接続詞 *damit* で導かれた副文が用いられており、その内容が、b では *zu* 不定詞句で表されているため、空欄に補うのが、*zu* 不定詞句と共に目的を表す *um* であること。
- (3) a で受動の可能を表す *sich*⁴ 不定詞 *lassen* が用いられており、b では主語 *man*、4 格目的語 *das Problem*、不定詞 *lösen* が用いられていることから、b は能動文であり、可能を表す話法の助動詞 *können* の 3 人称単数現在 *kann* を補うこと。
- (4) a の主語が *man* であること、b の前半が定動詞後置の副文であるにも関わらず主語がないこと、またこれに後続する主文にも主語がないことから、空欄に補うのが、副文の主語であり、かつ後続する主文の主語を省略することができる不定関係代名詞 *Wer* であること。
- (5) a の *damit* が *mit dem Wörterbuch* を表していること、これに対応する b の後半が定動詞後置の副文であることから、*Wörterbuch* を先行詞とする定関係代名詞中性単数 2 格の *dessen* を補って、*mit dessen Hilfe* とすること。

2008年から2016年の問3は、5問出題され、副文と前置詞句またはzu不定詞句、主文と副文(関係文を含む)、過去時称と現在完了、能動文と受動文、直接話法と間接話法との書き換えや、命令文、受動の可能・受動の必要を表す構文、知覚動詞構文、話法の助動詞を用いた文、wennの省略などが問われている。

副文と前置詞句またはzu不定詞句に関しては、以下の表現による書き換えが問われている。

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 時間：als / während ⇔ bei + 3格 | 譲歩：obwohl ⇔ trotz + 2格 |
| 条件：wenn ⇔ bei + 3格 | 目的：damit ⇔ um + zu不定詞 |
| 理由：weil ⇔ wegen + 2格 | |

主文を副文に書き換える問題では、bevor / eher、nachdem、obwohl / obgleichなどの従属接続詞が問われている。また、関係文に書き換える問題では、定関係代名詞、不定関係代名詞wer、前文の内容を受ける不定関係代名詞was、関係副詞wo、wohinおよび前置詞と不定関係代名詞wasの融合形wo(r) + 前置詞も出題されている。

能動文と受動文との書き換えでは、例えば以下のように、自動詞の受動文やbekommen受動も出題されている。なお、太字が正解である。

- a Heute Abend tanzt man in diesem Saal.
- b Heute Abend **wird** in diesem Saal getanzt.

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会(2015)S.5)

この問題では、bのgetanztは自動詞の過去分詞であり、主語がないことから、aの能動文を非人称受動文にするため、受動の助動詞wirdを補う。

- a Meine Oma hat mir diesen Computer geschenkt.
- b Ich habe diesen Computer von meiner Oma geschenkt **bekommen**.

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会(2010)S.39)

この問題では、aの能動文を受動文に書き換えるが、aの3格目的語mirがbでは1格主語ichになっているため、bekommen受動にする必要がある。

受動の可能または受動の必要に関しては、以下の書き換えができるかが問われている。

ドイツ語技能検定試験 2 級筆記試験で求められているドイツ語運用能力について

・受動の可能

Man kann das Problem leicht lösen. (主語 man と können を用いた能動文)

Das Problem kann leicht gelöst werden. (können を用いた受動文)

Das Problem lässt sich leicht lösen. (sich⁴ 不定詞 lassen)

Das Problem ist leicht zu lösen. (sein + zu 不定詞)

・受動の必要

Das Problem muss unbedingt gelöst werden. (müssen を用いた受動文)

Das Problem ist unbedingt zu lösen. (sein + zu 不定詞)

また、相関接続詞、相関語句などについても、so ~, dass ..., weder A noch B、zwar A, aber B などが出題されている。

2.2.1.4. 問4

問4は、文法、語彙・熟語に関する問題であり、2015年秋期試験は以下のとおりである。

4 次の(1)~(4)の文で()の中に入れるのに最も適切なものを下の1~4のうちから一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

(1) In der Umfrage wurde auch () gefragt, ob sie rauchen würden.

1 damit 2 danach 3 darauf 4 davon

(2) Du warst ja da! Du hättest mir ruhig helfen ()!

1 können 2 mögen 3 werden 4 wollen

(3) Wir haben keine Eier mehr. Kaufen wir ()?

1 ein 2 eine 3 welche 4 welches

(4) Der Forscher hat seine Enttäuschung darüber zum Ausdruck ().

1 gebracht 2 gekommen 3 genommen 4 geraten

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2016) S.40)

ここで問われているのは、以下の点である。

(1) 動詞 fragen が、前置詞 nach と結びついて熟語をなすこと。

(2) 選択肢のうち werden は完了の助動詞 haben と結びつかないこと。

残りの選択肢のうち、前後の文脈から意味的に適切なのが können で

あること。

- (3) 選択肢のうち、名詞の複数形 Eier を指すことのできる不定代名詞 *welch* の複数 4 格 *welche* が正解であること。
- (4) 動詞 *bringen* が、*et⁴ zum Ausdruck bringen* で「～を言葉で表現する」を意味し、*bringen* の過去分詞が *gebracht* であること。

2008年から2016年の問4は、4問出題され、完了の助動詞 *haben* / *sein*、受動態、関係代名詞、不定代名詞などの代名詞類、話法の助動詞、接続詞などが問われている。

完了の助動詞に関しては、*sein* 支配の動詞が主に問われており、典型的な *sein* 支配の自動詞 *abfahren* (移動)、*ein|schlafen* (変化) のほかに、他動詞としては *haben* 支配だが、自動詞としては *sein* 支配の *auf|brechen*、例外的な *sein* 支配の自動詞 *begegnen*、*gelingen* が出題されている。さらに、前後の文脈から、現在完了か過去完了かを判断する力も問われている。

話法の助動詞に関しては、その過去分詞が2つあり、ほかに本動詞がある場合は、その過去分詞が不定詞と同形であること、本動詞として用いられている場合は、本来の過去分詞が用いられることが問われている。また、前後の文脈から意味的に適切な話法の助動詞を選択する問題も出題されている。

前置詞に関しては、問2ですでに言及した、特定の前置詞と結びついて用いられる動詞や形容詞などの熟語のほかに、3・4格支配の前置詞に関して、それが到着・出現・消滅などを表わす動詞と用いられる場合は、場所として3格を支配することが問われており、*an|kommen* と *zu Hause* および *landen* と *auf der Erde* が出題されている。

代名詞類に関しては、非人称目的語 *es* が用いられた表現 (*es sich⁴ bequem machen*, *es gut mit³ meinen*)、定関係代名詞 (特に2格と複数3格)、前文の内容を受ける不定関係代名詞 *was* などが問われている。

接続詞に関しては、動詞の位置から並列接続詞か、従属接続詞かを判断できること、前後の文脈から意味的に適切な接続詞を補えることが問われている。これまでに問題されている接続詞は以下のとおりである。

- ・並列接続詞：*denn*
- ・従属接続詞：*bevor*、*da*、*dass*、*damit*、*indem*、*ob*、*sobald*、*soweit*

2.2.1.5. 問 5

問 5 は、やや長い文章を読んで、その要点を理解する力を問う問題であり、2015 年秋期試験は以下のとおりである。

5 次の (1) と (2) の文章を読んで、それぞれの内容に合うものを 1～3 のうちから一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

(1) Britische Forscher der Universität Cambridge entdeckten einen direkten Zusammenhang zwischen dem Bruttosozialprodukt* eines Landes und dem Verlust der Sprachenvielfalt. Sie warnen davor, dass Sprachen gerade in reichen Ländern wie in Amerika, Kanada und Australien am rasantesten verschwinden.

Hier müssten Minderheiten die dominante Sprache übernehmen, um nicht wirtschaftlich und politisch ausgegrenzt zu werden. Dabei halten die Forscher den Erhalt kleiner Sprachen für besonders wichtig, um weltweit die kulturelle Vielfalt zu bewahren.

Ein Beispiel für eine fast ausgestorbene Sprache ist Wichita, ein Dialekt der amerikanischen Prärie-Indianer. Es existiert nur noch eine einzige Sprecherin. Die Linguisten hoffen, dass ein neuer Trend der Rettungsanker für aussterbende Sprachen sein könnte: die mehrsprachige Erziehung von Kindern.

*Bruttosozialprodukt: 国民総生産

1 Das Überleben einer Sprache ist von der wirtschaftlichen Lage ihrer Benutzer unabhängig.

2 Die Minderheiten müssen die herrschende Sprache akzeptieren, um ihre politische Selbstständigkeit zu gewinnen.

3 Linguisten der Universität Cambridge sehen in der multilingualen Erziehung einen Weg zur Erhaltung aussterbender Sprachen.

(2) Wer Barockmusik hört, tut etwas für Herz und Kreislauf. Zu diesem Schluss kommt der Herzspezialist Hans-Joachim Trappe vom Marienhospital in Herne.

Trappe wertete Studien zu den gesundheitlichen Reaktionen verschiedener Musikstile aus. Sein Ergebnis: Vor allem Kompositionen von Georg Friedrich Händel und Johann Sebastian Bach gesteht Trappe „positive Effekte bei Herz-Kreislauf-Erkrankungen“ zu. Als Beispiel nennt

er den Choral „O Mensch, bewein Dein Sünde groß“ aus der „Matthäus-Passion“.

Das Hören einer Bach-Kantate führe medizinisch betrachtet „zur Erweiterung der Gefäße und Blutdrucksenkung“, erklärt Trappe den Wirkmechanismus. Der Hörgenuss wird von Nerven übermittelt und verursacht letztlich das Ausschütten von Hormonen. Trappe empfiehlt: Für die Therapie eignen sich vor allem ruhig dahinfließende Werke. Die Deutsche Herzstiftung hat eine CD mit der passenden Musik zusammengestellt.

- 1 Johann Sebastian Bach ist an einer Herz-Kreislauf-Erkrankung gestorben.
- 2 Barockmusik verhindert die Zunahme von Hormonen bei den Zuhörern und belastet deren Nerven.
- 3 Das Leiden der herzkranken Menschen kann besonders durch beruhigende Musikstücke gelindert werden.

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2016) S.41)

ここでは、以下の点が問われている。

- (1) 選択肢 1 が、本文の ... entdeckten einen direkten Zusammenhang zwischen dem Bruttosozialprodukt eines Landes und dem Verlust der Sprachenvielfalt. と内容的に一致していないこと。

選択肢 2 の um ihre politische Selbstständigkeit zu gewinnen が、本文の um nicht wirtschaftlich und politisch ausgegrenzt zu werden と内容的に一致していないこと。

選択肢 3 が、本文の Die Linguisten hoffen, dass ein neuer Trend der Rettungsanker für aussterbende Sprachen sein könnte: die mehrsprachige Erziehung von Kindern. と内容的に一致しており、これが正解であること。

- (2) 選択肢 1 の内容が、本文で言及されていないこと。

選択肢 2 が、本文の Der Hörgenuss wird von Nerven übermittelt und verursacht letztlich das Ausschütten von Hormonen. と内容的に一致していないこと。

選択肢 3 が、本文の Für die Therapie eignen sich vor allem ruhig

ドイツ語技能検定試験 2 級筆記試験で求められているドイツ語運用能力について

dahinfließende Werke. と内容的に一致しており、これが正解であること。

2008年から2015年の問5は、ドイツ語の文章の内容と一致するドイツ語文を選択する問題である。選択肢は、主に、本文の表現を言い換えたものであり、同一内容を表す種々の表現を理解する力が問われている。問題文は、研究結果・学術的発見、動植物の生態、自然現象、自然保護、環境問題、学校教育、健康問題、社会問題、海外事情などをテーマとした内容である。

2.2.1.6. 問6

問6は、長い文章を読んで問いに答える問題であり、2015年秋期試験は以下のとおりである。

6 次の文章を読んで (1)~(5) の問いに答えなさい。

Die Deutschen reisen sehr gern; je weiter, desto lieber. Insgesamt gaben Reisende aus Deutschland im Jahr 2012 knapp 64 Milliarden Euro im Ausland aus, das wäre ein Jahr zuvor noch Weltrekord gewesen. Das Gegenstück zu diesem Ferntourismus ist eine ausgeprägte deutsche Wanderlust. „Der Zweck des Reisens ist, zum Ziel zu kommen, der Sinn des Wanderns ist, unterwegs zu sein“, hat der erste Bundespräsident Theodor Heuss einmal gesagt, und auch dieses Unterwegssein liegt vielen Deutschen offenbar im Blut. Rund die Hälfte aller erwachsenen Bundesbürger, so die „Gesellschaft für Freizeit“, wandern mehr oder weniger regelmäßig. Laut Institut der deutschen Wirtschaft lassen sogar zwei Drittel aller Deutschen über 18 bei ihren Welterkundungen gerne einmal das Auto stehen. Am wichtigsten sind den Wanderern dabei eine schöne Landschaft und eine weite (**A**). An dritter Stelle folgen verlässliche Wegweiser.

(a) Die typisch deutsche Reise- und Wanderlust kontrastiert auf den ersten Blick ganz seltsam mit einer ebenso typisch deutschen Heimatverbundenheit. Ein Amerikaner zieht in seinem Leben durchschnittlich vierzehnmal um, ein Engländer achtmal, ein Japaner fünfmal, ein Deutscher dreimal. Und nur, wenn es nicht zu vermeiden ist. Das ZDF kommentiert, über die Hälfte aller Deutschen glaubt, das Thema „Heimat“ werde in den nächsten Jahren an

Bedeutung weiter wachsen.

Vor allem ausländischen Besuchern fällt diese Heimatverbundenheit der Deutschen auf. Der russische Schriftsteller Vladimir Kaminer fasst seine Eindrücke wie folgt zusammen (die er mit dem Vorurteil begonnen hatte, dass auch in Deutschland, wie in seiner eigenen Heimat Russland, alle nur das eine wollten: weg aus ihrem Dorf). „Inzwischen weiß ich, dass die Menschen in Deutschland ihren Wohnsitz, wo immer er auch sei, über alles lieben und sich ein glückliches Leben woanders gar nicht vorstellen können.“

(b) Genau dieser Umstand, dass sich viele Deutsche „ein glückliches Leben woanders gar nicht vorstellen können“, erklärt vielleicht dann auch die typisch deutsche Reiselust. „Erst die Fremde lehrt uns, was wir an der Heimat besitzen“, schrieb schon Theodor Fontane. Wem es gleichgültig ist, wo er lebt, hat auch keine Lust, im Urlaub wegzufahren; die typisch deutsche Heimatverbundenheit ist (c) also geradezu ein Antrieb, zur Abwechslung auch einmal andere Regionen dieser Erde aufzusuchen.

(1) 空欄 (A) に当てはまる語として最も適切なものを次の 1~4 のうちから一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

1 Absicht 2 Aussicht 3 Einsicht 4 Vorsicht

(2) 下線部 (a) の内容説明として最も適切なものを次の 1~4 のうちから一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 ドイツ人に特徴的な旅行好きは、故郷愛に比べて知られていない。
- 2 旅行好きなタイプのドイツ人は、心から故郷を愛するドイツ人に対して距離を感じる。
- 3 旅行好きであることがドイツ人の特徴だが、それと比べれば故郷を愛するドイツ人というのはめずらしい。
- 4 旅行好きと故郷愛は相反して見えるが、奇妙なことにどちらもドイツ人の特徴である。

(3) 下線部 (b) の内容説明として最も適切なものを次の 1~4 のうちから一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 ドイツ人は、故郷での幸せな生活を紹介するために旅行する。
- 2 ドイツ人は、今住んでいる場所以外でなら、幸せな生活ができ

- らと思っているので旅行する。
- 3 ドイツ人は、旅行のない生活を想像することができないほど旅行が好きだ。
- 4 ドイツ人は、旅行することで故郷での生活が一番幸せだと実感する。
- (4) 下線部 (c) を言い換えたときに、最も意味が近くなるものを次の 1～4 のうちから一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。
- 1 aber 2 daher 3 doch 4 wieso
- (5) 本文の内容に合うものを次の 1～6 のうちから三つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。ただし、番号の順序は問いません。
- 1 ドイツ人にとって旅行の目的地は、遠ければ遠いほど、好ましい。
- 2 18歳以上のドイツ人の3分の2は旅行の際車を旅行先に駐めている。
- 3 ドイツ人は必要に迫られない限り、引っ越さない。
- 4 故郷というテーマは今後重要になると半数以上のドイツ人が思っている。
- 5 外国人の旅行者にとっては、ドイツ人の故郷愛は理解できない。
- 6 ドイツ人にとって、住む場所と幸福感は結びついていない。

(公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2016) S.42 f.)

ここで問われているのは、以下の点である。

- (1) 選択肢がすべて *-sicht* と前綴りによる単語であるが、空欄の直前の *eine schöne Landschaft* と関係があり、かつ形容詞 *weit* によって修飾可能な語として *Aussicht* を選択できること。
- (2) 下線部、特に *mit et³ kontrastieren*、*seltsam*、*Verbundenheit* の意味がわかること。
- (3) 下線部で用いられている *vorstellen* が、*sich³ et⁴ vor|stellen* で「～を想像する」を意味し、*j³ j⁴/et⁴ vor|stellen* 「～に～を紹介する」、*sich⁴ (j³) vor|stellen* 「(～に) 自己紹介する」とは異なること、また *woanders* の意味、下線部が否定文であることを含めて、下線部の内容を理解でき

ること。

- (4) 多義語である副詞 also の本文における意味がわかり、選択肢にある daher が類義語であること。
- (5) 本文の je + 比較級, desto + 比較級 (je weiter, desto lieber) の意味がわかり、選択肢 1 が正解であること。

本文の Und nur, wenn es nicht zu vermeiden ist. で用いられている vermeiden および sein + zu 不定詞の意味がわかり、選択肢 3 が正解であること。

本文の über die Hälfte aller Deutschen glaubt, das Thema „Heimat“ werde in den nächsten Jahren an Bedeutung weiter wachsen. で用いられている in den nächsten Jahren, an Bedeutung wachsen の意味がわかり、選択肢 4 が正解であること。

2008年から2015年に出题された長文の内容は、文化・社会事情、研究結果・学術的発見、偉人の業績・伝記、コミュニケーション、健康問題、食文化、日常生活などに関するものである。これらの文章を読み、その内容から本文中に適切な語句を補うこと、本文中の語句と類義の語句を選択すること、本文中の文と同じ内容を表す文を選択すること、および本文の内容と一致する日本語文を選択することができるかが問われている。

2.2.1.7. 問7

問7は、空欄に入れるのに適切な表現を選択して会話を完成させる問題であり、2015年秋期試験は以下のとおりである。

7 次の会話を読み、空欄(a)～(e)に入れるのに最も適切なものを、下の 1～5 のうちから選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

Interviewer: Herr Zimmermann, Sie durften auf dem Berliner Allerheiligsten fotografieren: auf dem Brandenburger Tor. Wie war das? Ein erhabener Anblick?

Zimmermann: Auf dem Brandenburger Tor zu stehen, ist ein großes Privileg. Die Kriegsphotografen aller Siegermächte, berühmte Kollegen, haben von dort fotografiert. Beim Aufstieg fühlte ich mich aber eher wie ein Schornsteinfeger. (a) Mit weichen Knien.

Interviewer: Wie sind Sie überhaupt nach oben gelangt? Haben Sie einfach beim Pförtner geklingelt und sind dann hochgestiegen?

Zimmermann: Auf keinen Fall. (**b**) Der Senat musste die Aufnahmen Monate im Voraus genehmigen. Am großen Tag aber habe ich dann zwei Stunden dort oben fotografieren dürfen, sogar nach Feierabend des Verwalters.

Interviewer: Waren Sie gesichert? Das Brandenburger Tor ist immerhin 26 Meter hoch.

Zimmermann: Gesichert war ich nicht. (**c**) Wir haben ein halbes Jahr auf die Aufnahmen gewartet, auch weil es seit Oktober immer wieder geregnet und geschneit hat.

Interviewer: Sie sind der Siegesgöttin Victoria ganz nah gekommen. Wie gut erhalten ist die Dame?

Zimmermann: (**d**) Ich habe schon vor acht Jahren die Restaurierung des Brandenburger Tors fotografiert.

Interviewer: Für GEO Special fotografierten Sie Orte in Berlin, an denen die Mauer verlief — aus der gleichen Perspektive wie ein unbekannter Grenzer zu DDR-Zeiten.

Zimmermann: 900 Bilder aus dem Mauer-Archiv habe ich durchgeschaut — da zieht eine unheimliche Kälte in einem ein. Man darf auch nicht vergessen: (**e**) Aus der Perspektive konnte sonst niemand die Mauer sehen.

- 1 Sie ist sehr schön und eine gute Bekannte von mir.
- 2 Das Brandenburger Tor ist die heilige Kuh bei allen Berliner Behörden.
- 3 Für die alten Aufnahmen hat jemand von oben den Todesstreifen* fotografiert.
- 4 Deshalb durfte ich bei schlechtem Wetter auch nicht auf das Dach: Wenn es nass und windig ist, rutscht man leicht aus.
- 5 Man klettert über eine immer kleinere Treppe auf einen Dachboden, zwingt sich durch eine Luke — und dann guckt man mit dem Kopf aus dem Tor.

*Todesstreifen: ベルリンの壁にあった無人地帯

ここでは、以下の点が問われている。

- (a) 先行文 *Beim Aufstieg fühlte ich mich aber eher wie ein Schornsteinfeger.* に続く文として、階段をのぼっていく様子を述べている選択肢 5 が適切であると判断できること。
- (b) インタビュアーのブランデンブルク門を登る際の手続きが簡単だったのかという質問に否定で答え、そのあとに撮影の許可に数ヶ月かかったことが述べられており、ブランデンブルク門が神聖な場所であることを述べている選択肢 2 を選択できること。
- (c) 命綱をつけていたのかという問いに対し、つけていなかったと答えており、それに続く文として、悪天候の際の危険を述べている選択肢 4 が適切であること。
- (d) 勝利の女神ヴィクトリア像に関する質問に対する答えとして、3 人称単数女性の人称代名詞 *sie* を用いた選択肢 1 が適切であること。
- (e) 記録保管所で見た 900 枚の写真を受けた表現 (*die alten Aufnahmen*) が用いられている選択肢 3 が、前後の文脈からも適切であること。

2008 年から 2011 年春期に出題された会話文は、旅行先の相談、お互いの家族、部屋探しなどをテーマにしたものなど種々様々であるが、2011 年秋期以降は、映画監督、作家、学者などに対するインタビュー形式の対話が出題されている。この問題では、会話の流れを理解し、当該文の前後の文脈から適切な表現を判断できること、質問に対する適切な返答または返答に対する適切な質問を判断できるかが問われている。

3. 外国語の自律学習能力養成にむけて

独検の 2 級合格も目指して、2016 年度後期から開講される「ドイツ語実践 B」に先行して、「ドイツ語実践 A」が 2015 年度後期から開講されている。「ドイツ語実践 A」では独検 3 級で求められているドイツ語運用能力を習得・向上させるために、3 級で出題された問題および同種の問題を受講生に課し、その結果をまとめたクラス全体の成績表を作成・配付している (人見 (2016) S.67 ff.)。これは、教授者が受講生のドイツ語運用能力を正確に把握するために必要なものであり、この成績表は、公益財団法人

ドイツ語技能検定試験 2 級筆記試験で求められているドイツ語運用能力について

ドイツ語学文学振興会が公表している受験者の各問題の正解率も記載するという改善をして、「ドイツ語実践 B」でも作成・配付する予定である。

また学習者が、文法、語彙・熟語、読解、聴解などのカテゴリーで、どの運用能力がどの程度足りていないのかを自覚することは、効果的な学習に不可欠であり、自律した外国語学習につながるものと考えられる。そこで、「ドイツ語実践 A」では、カテゴリーごとの個人成績表も作成し、各受講生に配付している(人見(2016) S.70)。この個人成績表は「ドイツ語 B」でも作成・配付する予定であるが、配付の時期に関しては、当該試験の後だけでなく、試験前にも配付して、各自がより効果的な学習を行えるように改善する。

この両成績表によって、教授者自身は、学生のドイツ語運用能力について、かなり正確に把握できるようになると思われる。一方、受講生がこれらをどのように評価しているかであるが、これに関しては、2015年度に実施された本学の授業アンケートの結果が参考になろう。「ドイツ語実践 A」のアンケート結果では、「教員は学生の反応や理解度・到達度に留意しながら授業を進めていましたか」というマーク式の設問の平均値は4.5点(5点満点)であった。さらに自由記述には、この授業の優れている点として、試験結果の詳しいデータを配付して指導していることが2件(回答者数17名)記載されていた。このアンケート結果から、受講生自身もこの両成績表が有意義であると判断していると思われる。

今回は紙面の都合で割愛した2級の聞き取り問題も含め、今後は、この両成績表のデータを蓄積・分析し、自律学習に向けた、より効果的な学習に寄与する取組を考案する必要がある。

参考文献

- 人見明宏(2011): ドイツ語 I (総合) 文法. (自主作成教材; B5、28ページ)
— (2016): ドイツ語技能検定試験 3 級で求められているドイツ語運用能力について. In: 愛知県立大学高等言語教育研究所年報『ことばの世界』第 8 号, S.45-70.
公益財団法人ドイツ語学文学振興会 (2009): 独検過去問題集2009年版〈2級・準1級・1級〉. 郁文堂.
— (2010): 独検過去問題集2010年版〈2級・準1級・1級〉. 郁文堂.
— (2011): 独検過去問題集2011年版〈2級・準1級・1級〉. 郁文堂.

- (2012) : 独検過去問題集2012年版〈2級・準1級・1級〉. 郁文堂.
- (2013) : 独検過去問題集2013年版〈2級・準1級・1級〉. 郁文堂.
- (2014) : 独検過去問題集2014年版〈2級・準1級・1級〉. 郁文堂.
- (2015) : 独検過去問題集2015年版〈2級・準1級・1級〉. 郁文堂.
- (2016) : 独検過去問題集2016年版〈2級・準1級・1級〉. 郁文堂.
- 室井禎之 / 人見明宏 (2005) : 独検 3 級突破. 三修社.
- (2005) : 独検 4 級突破. 三修社.

参考ホームページ

独検 online : <http://www.dokken.or.jp/> (ドイツ語技能検定試験のHP ; 2016年9月17日閲覧)